

PLAYING RULES RINK BANDY

1997年に国際バンディ連盟（IBF）によって承認された

ルール1 競技場

フィールドの寸法とマーキング（境界とプレーに関するライン）

フィールドは、最低 45m から最大 60m の長さを有するものとし、または幅は最低 26m から最大 31m。フィールドは完全な境界線で明確に示されなければならない。ミドルライン（赤）、2つのゴールライン（赤）、2つのオフサイドライン（青）。ゴールラインの間は3つの同じサイズに分割されている。

ゴールラインは、ベースラインから最小 3.5m、最大 4.5m に引かれます。フィールドには赤で印された4つのストロークオフエリアがあり、半径 4.5m。ゴールエリアは、ゴールラインの中心点より半径 1.8m の半円で書かれる。（アイスホッケーと同様である）

サイドボード

フィールドは、最小 15cm、最大 122cm のサイドボードで囲まれる。低いサイドボードを使う場合、低く曲線のものを使わないのであれば4つのコーナーには傾斜版を遣うものとする。

ゴールライン後ろ最小 3.5m、最大 4.5m にサイドボードは置かれる。

低いボードは、木材、アルミニウム製や許される材料でできており、長さ 4m、高さ 15cm、厚み 4cm である。ボードは、ボードの外側に固定されているフックにより氷の上に置かれる。

ペナルティーエリア

ペナルティーエリアは、ブルーラインからエンドドライに向かってゴールラインの後ろまでのエリア。ペナルティーエリアでは、ゴールキーパーは移動やボールを拾うことができる。

ゴール

高さ 122cm、幅 183cm、深さ 最小 60cm 最大 112cm の寸法である。

ゴールは、編んだネットである必要がある。金属ネットの場合は、ドロップネットが必要。

ネットの網目の円周は 4cm 以下で、ゴールは、スチールシリンダーで設置され、外側の部分がベースラインに面する。

ルール2 用具

ヘルメット

すべての選手と審判は承認されたヘルメットを着用する必要がある。すべての選手は、マウスピースを着用しなければならない。ゴールキーパーは、フルフェイスマスクが必要である。氷の上のすべての選手は、フルフェイスマスクを着用する場合もある（IBF が承認すれば）。IBF 公認のすべての試合では、ジュニア選手（19 歳以下）は、フルフェイスヘルメットの着用が義務付けられている。

スティック

スティックは、木材やそれと同様の材料製である。スティックのブレードの幅は（上から下へ測定したとき）テープやひもに関係なく 7cm 以下でなければならない。スティックの長さは、外側に沿って測って 125cm 以下である。スティックの角や端は削って丸められていないといけない。スティックには金具、ネジ、ストラップ（スキーのストックのように）、似た付属品がついていてはならない。スティックのカーブは最深部で 40mm 以下でなければならない。

ボール

ボールが容易に目に見える赤い色で、承認された材料でなければならない。硬い氷の上に 1.5m の高さから落とすとき、20cm～30cm バウンドしなければならない。直径は 65mm（誤差 1mm）。重さは新品の状態では 60-65g

スケート

すべての選手と審判は氷の上ではスケートを履かなければならない。他人を傷つけるような鋭い部分があってはいけない。

スケートは、それが他の人を傷つける可能性があります。滑走面の上方後部にプラスチック製のノブがなければならない

ゴールキーパーの用具

ゴールキーパーはスティックを使用することができない。グラブの指は互いに 5 つに分かれている必要があります。グラブは、厚さ 1cm 以下の保護材を内部に張ることができる。ジャージは他の選手と異なっている必要がある。ゴールキーパーは、承認された膝の保護具を着用する必要がある。

コメントと解釈

認められた道具

レフェリーは試合前、試合中に試合ボール、スティック、選手の用具が正しいか違法化をチェックします。

レフェリーによる用具のチェック

レフェリーは試合前、スティックを含めてすべての用具を点検しなければならない。試合開始に際して、レフェリーは両チームのキャプテンから、すべての選手がルールに則した正しい防具を着用していると報告を受ける。チームのキャプテンは、この時点でチームに対して責任を持つ。試合中に選手が違反した防具をつけていることが判明したとき、ペナルティーボックスで 2 分間のペナルティー（退場）になる。このとき、フリーストロークで試合は再開される。

防具の不備で退場となった選手は、自ら防具を修正し、レフェリーに見せる必要がある。

試合中に防具が脱げる

試合中、不注意でヘルメット、マウスピース、フェイスマスク、スケートのプラスチックストッパーなどの防具がとれたとき、プレイ中であればプレイの継続を認める。ただし、すぐに防具を正しく着用する必要がある。これを怠ると、ペナルティ（時間）が科せられ、相手にフリーストロークが与えられる。

防具不備による試合の遅延

選手が、スケートや防具の調整で時間をかけ試合を意図的に遅らせる場合、レフェリーはその選手を告発できる。防具の調整は、フィールドに入る前にベンチで行われるべきである。このようなマナーで試合を遅らせた選手は、レフェリーにより 2 分間の退場となる。

ボールがスケートや防具に入ったとき

プレイ中にボールがスケートや防具に入ったとき、レフェリーは試合を止めるため笛を吹く。試合はファイスオフで再開する。

ボールに関する主催者の責任

主催者は試合や大会で必要となるすべてのボールを用意する責任がある。予備のゴールはゴールスタンドには置かない。ボールは、レフェリーの合図でオフィシャルより支給される。スケート、スティック、スティックテープはボールと違う色でなければならない。

ボールがゴールケージにスタックしたとき

ボールがゴールケージのネット上でスタックしたとき、ゴールキーパーそのボールを持ってプレーに戻ることができる。ネット上のボールを守備側選手がプレイしたとき、攻撃側のフリーストロークが与えられる。

ルール 3 競技者の数

Rinkbandy の試合は 2 つのチームで行われる。各チームは、ゴールキーパー 1 名を入れて氷上に 6 名の選手を配置する。4 名以上揃わないと試合が開始できない。

各チームには、予備選手（サブゴールキーパーを含めた交代選手）を使用する権利がある。

マッチシートは、試合前の適当な時間にレフェリーに渡され、そこにはすべての選手氏名、背番号記入されている必要がある。選手の合計は最小4名、最大12名である。

マッチシート（ゲームレポート）には、どの選手がサブゴールキーパーかを明記する必要がある。しかし、登録選手が12名に満たないときはその限りでない。すべての選手は交代選手として使える。チームのラインナップは試合の直前まで変更できる。試合前に、選手がゲームシートに記載されておらず、チームもこれをしなかったとき、その選手がファールを犯したときは、レフェリーが確認してゲームシートが整う後半あるいはオーバータイムまでプレーができない。登録されていない選手を使った場合はペナルティーが科され、そのチームは4分間のペナルティーとされる。

選手は、マッチシートに自分の氏名と背番号が登録された後の、次のハーフタイムから試合に出場できる。

キャプテン

チームのキャプテンは、左胸に“C”のマークまたは左腕にバンドを着用しなければならない。

試合中の選手の交代

試合中選手交代の制限はない、交代は試合中にのみ行われる。ゴール、ペナルティーショット、ケガのときも可能である。選手の交代は同時に同じ場所（サイドラインからミドルラインの間）で行わねばならない。交代選手がプレーヤーベンチのボードを触るまで新しい選手は出てはいけない。交代の不正は2分間のペナルティーで出ようとした選手に科せられる。相手のフリーストロークになる。この不正を2回犯した選手は失格となり残り時間退場となる。（パーソナルファール2分間の後）交代選手が出ていないケガで退場の選手はいつでも試合に参加できる。これは防具の修理や調整ではずれていた選手にも適用される。ケガで交代する選手はどこから退場してもよい。

パーソナルファールを科せられた選手の取り決め

タイムペナルティーを科せられた選手は、プレイの中断なくレフェリーやオフィシャルから言われたらフィールドのプレイに参加できる。タイムペナルティーの間、ペナルティーを科せられた選手は他の選手と交代することはできない。

このルールに加えて、相手にゴールを決められたとき、ペナルティーは消化される。このときペナルティーはパーソナルファールとしてカウントされる。これは両チームが同数のペナルティーのときは行われない。ペナルティーを犯した選手は自分のペナルティー時間が終わるまで氷に乗れない。その選手のチームは氷上から1名の選手を除かねばならない。複数の選手がペナルティーを科せられているときゴールされたら、1番目の選手のペナルティーがパーソナルファールとなる。

残り時間退場の選手は、延長戦でも当該試合中使うことはできない。

コメントと解釈

得点されたとき、守備側がチーム全員を入れ替えたなら「待ち時間ペナルティー」が与えられる。パーソナルファールでペナルティーを科せられた選手は、ペナルティーボックスでペナルティーを執行しないといけない。遅刻などで試合開始時選手が足りないとき、ラインナップシートに掲載された現状にいる選手で試合をスタートせねばならない。チームはハーフタイムまでに残りの選手を揃えなければならない。オーバータイム時、勝敗をシュートアウトで決めるとき以外は試合を持ち越す。

ペナルティーの遅延（ペナルティーが3人）

チームが3人ペナルティーを科せられたとき、ディレイドペナルティーが適用される。ペナルティーを科せられる選手は全員ペナルティーボックスに行かねばならない。

ペナルティーが時間が有効になるまでチームは他の選手を使える。

試合の開始前に3名以下のとき

試合開始時間にチームに4人以上の選手がいたら、ちゃんとした理由で試合開始を遅らす以外、レフェリーは試合を始めなければならない。チームの人数が3名以下のとき、レフェリーは試合を開始できない。レフェリーは状況を判断せねばならない。プレーを始めるかべきかどうか。納得の行く時間内にチームの人数が揃うかどうか。

試合中、利用可能な選手の数が相手チームの選手の半分以下のとき

フル退場のペナルティー、ケガにより選手の数が少なくなったとき、レフェリーは試合を中断する。時間制限付で退場の選手は利用できる選手としてカウントする。

ルール 4 競技時間

試合時間は、2x30分で10分の休憩（ハーフタイムの休憩）を含みます。トーナメントでは試合時間を減らすこともある。

タイムアウト

各チーム、1試合に1度 30秒のタイムアウトが認められる。タイムアウト時、ゲーム時計は止められる。

タイムアウトは、唯一のゲーム時計を止める手段です。チームは（キャプテンやリーダー）試合中レフェリーにタイムアウトを申告する。最初のホイッスルでタイムアウトが与えられる。

ルール 5 正当なプレーヤー

ゴールキーパーは、ペナルティーエリア内でボールを止めるために氷の上に身を投げる権利がある。他の選手がボールや相手を止めるために氷の上に身を投げることは禁じられている。このマナーによって体を投げ出した選手は、プレイから離脱したとみなし、プレイに参加することは認めない。ゴールキーパー以外スティックなしでプレイすることは認められない。スティックが破損したときは、新

しいスティックを受け取るまでプレイに参加できない。新しいスティックを、サイドラインから氷上に投げ込むことは認められない。試合中に破損したスティックはレフェリーが笛を吹いて試合を停止した後フィールドから取り除かねばならない。これに違反した選手は2分間のペナルティーが科せられる。

コメントと解釈

スティックの持たない選手

スティックなしでのプレイ、破損したスティックの一部を使ってのプレイ、破損したスティックを取り除こうとしなかった場合は2分間のペナルティーが科せられる。

誤って氷に触れた選手

誤って、手や膝で氷に触った選手はプレイを続けることができる。

ひざの使用

片方または両方の膝でボールをタッチすることは認められない。

氷の上に体を投げ出す行為

ボールや相手を止めるために氷の上に身を投げる選手には、4分間のペナルティーが科せられる。ペナルティーエリアで衝突が起きたときは、フリーストロークとペナルティーが与えられる。物を投げるといった行為も禁止されており、4分間のペナルティーが科せられる。

ルール6 ボールに対するプレイ

ボールを打つ

スティックが肩の高さ以下において、スティックでボールを打ったり、止めたり、方向を変えたり、導いたりすることができる。

方向付け

両方のスケートが氷についている状態で、選手はスケートでボールの方向を変えたり、蹴ったりできる。選手が危険でない限り、選手は、ボールを止めたり、打ったりするため、ボールを味方や自分のスティックに方向付けするためジャンプすることが認められる。ボールを自分に方向付けした選手は、再度ボールを方向付ける前にスティックでボールを触らないといけない。同じ選手が、スティック以外で2度続けて方向付けすることはできない。

手やスティックでボールをとめる行為

フィールドにいる選手は手でボールを止めることは認められていない。肩より高い位置のスティック、頭、ヘルメットでボールが止められたときレフェリーにより試合は止められる。

決定的なアドバンテージの原因になり、ペナルティーエリアで行われたときペナルティーショットが与えられる。ファールがアンフェアアドバンテージを伴うとき、選手には2分間のペナルティーが科せられる。

コメントと解釈

ハイスティック

ボールを止めようとして、スティックでボールを打ったり打とうとしたりしたときのボールの打点が肩より高いことは禁じられており、ペナルティーが科せられる。肩の高さとは、スケート靴を履いてまっすぐに立ったときの方の高さである。

肩の高さ以下のストロークでも他のプレーヤーの至近で、他の選手にケガを負わせるリスクがあると解釈されれば罰せられる。例を挙げると、狭い場所でのテニスのストロークのような打法である。同様にムチで打つような行為はきわめて危険である。レフェリーは、他のプレーヤーにとって危険と判断すれば即座にプレイを止めなくてはならない。

ルール 7 相手に対するプレイ

打つ、蹴る、つかむ

足で蹴ったり、打つことは禁じられている。手で相手を押すことも禁じられている。スティックを叩いたりすることも禁じられている。相手を妨害することも禁じられている。また、相手をつかんだり抱きつくことも禁じられている。スティックを相手に投げたり、ボールを止めようとして投げることも禁じられている。（スティックは常に選手と一緒にあるべきである。）

相手のスティックを掴む行為

さらに、相手のスティックをヒット、持ち上げ、押し、掴むことや相手がスティックを使うのを妨害することは禁止されている。

スポーツマンらしくない行動

すべてのアンフェアなプレイ、危険なプレイは厳しく禁じられている。

ボールが届かないところにある選手による試合の遅延

ボールが選手の届くところがないとき、選手の妨害は禁止されている。

許容される攻撃

ボールが届く範囲にあるとき、危険でなく暴力的でないとき、肩と肩との接触プレイは許される。

ルール違反に対するペナルティ

ルール違反に対してはフリーストロークが与えられる。守備側ファールエリア（ゴールキーパーポジション）で守備チームがしたときはペナルティーショットが与えられる。必要であれば、レフェリーは選手を退場にできる。

コメントと解釈

相手への攻撃

相手に対する不法なヒッティングがあったとき、レフェリーは固い決意を示さねばならない。特に、スティックによるヒットが他の選手に当たったとき。このような攻撃の行為はどこで行われようとしたちにペナルティーに科すべきである。相手をヒットしたのがペナルティーエリアであればペナルティーショットが科せられる。

相手をスティックで打ちつけようとする行為

ボールが届く範囲にあるとき

選手が他の選手をスティックで打ちつけようとして失敗し、ボールが届く範囲にあるとき、レフェリーは、打ちつけようとした選手を退場とする。ゴールエリアで行われても、ペナルティーショットは与えられない。

ボールが届く範囲にないとき

ボールが届く範囲にないとき、選手が他の選手をスティックで打ちつけようとした場合は、その選手が打ちつけたものとみなしてペナルティーが科せられる。

妨害行為

ボールが届く範囲にないとき、相手選手を故意に妨害（身体を巧みに使う、陰になる）することは禁止されている。障害物のように見えてレフェリーがそう判断したとき、チーム警告が科され、相手にフリーストロークが与えられる。同じファールが再度犯されたとき（同一か別の選手により）犯した選手は妨害で2分間のペナルティーに科せられ、相手にフリーストロークが与えられる。

ルール 8 ゴールの認定

ゴールは、ボールが正しくプレイされており、ゴールポストとクロスバーの下のゴールライン（ゴールケイジの中の後ろのベースライン）をボールが完全に越えたときにゴールが認定される。

何かの理由でゴールが動いたとき、レフェリーは、ボールがゴールエリアを通過したと主張できるなら、ゴールを認定する権限を持つ。守備側選手により、ゴールされるのを防ぐためゴールを動かしたり押し込んだりした場合は、ペナルティーショットが与えられ、2分間の退場となる。ゴールの一調整の

ためプレイを止めたときは、ゴールラインから 1m のところから試合を再開する。ストロークオフ、フリーストロークオンゴール、ペナルティーショット、ファイスオフより直接ゴールすることは認められている。相手に当たってゴールに入ったときもゴールが認められる。

認定されないゴール

攻撃側チームのスケート（故意でなくても）から出てくるボールがゴールしたときは認められない。フリーストロークが攻撃側チームに与えられる。オウンゴールは、ゴールと認められる。ゴールキーパーからのスローによるゴールは認められない。レフェリーにあたって入ったゴールも認められなく、ファイスオフで再開する。

ルール 9 ゴールエリアでの妨害

選手はゴールエリア内に長時間とどまってはいけない。ポイントはゴールキーパーの視界を遮ったり動きを邪魔するかどうかである。この場合フリーストロークが与えられる。

ルール 10 ゴールキーパー

ゴールキーパーはペナルティエリア内では片手や両手でボールを掴んだり拾ったり自由にできる。ゴールキーパーは一度ボールを拾ったらプレイに戻すまで 5 秒が与えられる。チームメイトがゴールキーパーにパスしたとき、ゴールキーパーは手でそのボールを拾い上げてはいけない。ファールでフリーストロークが相手に与えられた場合、ゴールキーパーによるスローアウトのとき、ミッドラインを通過するまでに選手がサイドボードに触らねば攻撃側はプレイできない。ゴールキーパーが自身のペナルティエリア外るとき、身体かスケート（手、腕、頭は使えない）でのみしかプレイできない。

ルール 11 フリーストローク

攻撃側によるペナルティエリア内でのフリーストローク、-ゴール裏でのプレイを除く-は、最も近いフリーストロークスポットで行われる。例外は、攻撃側がサイドボードで行う場合は、ボールがサイドボードを越えて出て行ったときは出て行った場所のサイドボードより行う。

プレイがゴールラインの後ろで行われているとき、フリーストロークはサイドボードから 1m のところで行われる。通常のフリーストロークはプレイが笛でとまったところより行われる。ボールがリンクの施設（天井、照明、ゴール裏のネットなど）に触れて不自然な方向に変わったとき、守備側にフリーストロークが与えられる。

レフェリーが笛を吹いて 5 秒以内にフリーストロークを実行しなければならない。選手にはレフェリーが笛を吹くまで 5 秒を与えられ、その間にボールから少なくとも 4.5m 離れなければならない。

5 秒以内に 4.5m 相手が離れなかったらチーム警告が与えられる。これを繰り返すと 2 分間のペナルティを科せられる。試合終了前にフリーストロークの笛が鳴らされ、試合が終了してもフリーストロークは実施する。そして、ゴールはダイレクトに入るかディフェンスに触って入るかした場合のみ

認められる。チームメイトが触ったショットで試合かピリオドは終了となる（これ以上時間がないため）。パスが行われた時点で笛が吹かれプレイが止まる。

ゴールライン（ゴールケージ）の後のサイドボードのボール

守備側にとって：攻撃側に、ゴールラインから 1m のところでのフリーストロークが与えられる。

攻撃側にとって：守備側にゴール（キーパー）スローが与えられる。スローアウトされる間、選手はペナルティーエリア内にいなければならない。

以下のルールに従ってフリーストロークは与えられる。

防具の不正：スティック、スケート、義務的保護用具

選手交代の不正

フェイスオフの不正

ゴールキーパーによるファールや反則（ゴールキーパーが不正にボールを手で拾い上げる）

ゴールキーパーによる不正なスローでボールがアウトオブバーンズになったとき

不正なフリーストローク

不正なペナルティーショット

以下のルールに従ってフリーストロークは与えられる。

選手の権利に関するルールを破ること

ボールのプレイに関するルールを破ること

相手に対するプレイに関するルールを破ること

フリーストロークの実行

フリーストロークが実行されたとする目安は、ボールが少なくとも 20cm 以上動くことである。フリーストロークが実行した選手は、他の誰かがボールに触るまでボールに触れない。フリーストロークはどの方向に打ち出してもよい。もちろんゴールを直接狙ってもよい。

ルール 12 ペナルティーショット

ペナルティショットでは、選手が 2 分または 4 分間の退場が伴う。ボールはミッドライン上に置く。ボールが打たれてプレイになったとき、すべての選手はブルーラインより後ろから進行しなければならない。リターンショットに対してはすべての選手がゴールを決めることができる。（例外は、ルール 14 試合時間）ペナルティーショットは自陣のペナルティーエリアで故意に反則が行われたときに与えられる。（笛でプレイが止まらない詳細）

スポーツマンらしくない行動

危険なプレイ：選手が相手に対して暴力的な行動に没頭したとき

不法なプレイ

不正な行動によりゴールを拒否したとき:肩より高い位置でのスティックによるボールを止めたりプレイすること。または、押し上げたり押し下げて選手のスティックを妨害する。

スティックか防具を投げること

ひざ立ちの姿勢で身体を投げること

足を上げてボールを蹴ること

選手を掴むこと

ハイスティックによる危険なプレイ

ルール 13 ペナルティ

以下の手順に従いレフェリーは、ルールを破った選手やチームマネジャー（リーダー）に対してペナルティを科す。

警告（イエローカード）

レフェリーは必要と思ったとき警告を与えることができる。退場する選手やプレイ中の選手に警告を与えることはない。

2分間のペナルティ（ホワイトカード）

至近距離（行動）でのスティックによるヒット、故意による他の選手のヒット。暴力的でないが継続的な相手への危険なプレイ

選手の交代、またはプレイのルールを破るなど

フリーストロークの笛に続いて、ボールを打ちはなったり、フリーストロークを邪魔しようとしたり、フリーストロークの実施を止めたり妨害する行為。ボールを持っていない相手を妨害したらチームは警告を受ける。

ボールをハイスティック、手、腕、頭、振り上げたスケートで止める行為

スティックなし、破損したスティックを持ったプレイ。破損したスティックをプレイ中に蹴り飛ばす行為

4分間のペナルティ（ブルーカード）

相手を暴力的に攻撃する。または、次のいずれかの危険なプレイで相手を攻撃する場合：

タックル、ホールディング、足でのトリッピング、スケートで蹴る行為

選手によるレフェリーへの抗議

スティックか他の何かを相手やボールに投げる行為

オフィシャル、チームメイト、相手、観客に対するスポーツマンらしくない行動

2分間と4分間の同時ペナルティ

選手が2分間と4分間のペナルティーを同時に受けたときは4分間を有効とする。

残り時間退場（レッドカード） パーソナルファール

すでに2回、2分間か4分間のペナルティーが発行されているとき、3回目のファールで残り時間退場となる。前述の反則はパーソナルファールとして扱われペナルティー時間が執行された後は代わりの選手ができることができる。

残り時間退場（レッドカード） フルゲームペナルティー

スティックで打ち付けたり、腕、手、頭、身体を蹴ることにより相手を暴力的に残忍に攻撃する行為。レフェリー、オフィシャル、選手、観客に対して逆上する選手

ゴールキーパーのペナルティー

ゴールキーパーのみ2分間か4分間のペナルティを他の自分のチームの選手に代わってもらうことができる。（レッドカード（退場）は除く）

チームマネージャーとベンチにいる控え選手のペナルティ

すべてのペナルティーはベンチエリアにも与えられる。チームマネージャーへの残り時間退場（レッドカード）については、試合に出ている選手が4分間のペナルティを執行する。ペナルティーを科された人物（コーチ、選手）は競技エリアを離れなければならない。

ルール 14 主審とマッチセクレタリー

レフェリー権限

レフェリーの権威は、競技場に到着して有効となり、離れるまで持続する。

二名のレフェリー

二名のレフェリーが試合をリードする。二人とも同等である。

レフェリーの服装

レフェリーはスケートを履き、承認されたストライプのシャツを着る、濃い色の長いズボンを履くものとする。レフェリーは、黒いヘルメットをかぶるものとする。

レフェリーに触ったボール

プレイ中ボールがレフェリーに触り、角度が変わりゴールに入ったときはノーゴール。フリーストロークスポットでフェイスオフを行う。

試合時間

RinkBandy では、試合時間が一時的に止まるチームタイムアウトを除いて、試合では時計は流している。(動きっぱなし) レフェリーは試合時間が適切かどうかに関心を持つ。レフェリーは事故や不都合で試合時間が失われたとしたとき、試合時間を延長できる。

ハーフタイムや試合終了直前にフリーストロークかペナルティーショットが与えられたら試合終了後、1回だけ実施する。フリーストロークのゴールは直接入ったときだけ認められる。ペナルティーは試合中同様にペナルティー選手なしで執行される(試合が再開したように)。リバウンドのショットは認められない。

選手の参加を拒否する権利

レフェリーには、選手の参加を拒否する権利がある。ゲーム前に選手がレフェリー、他のオフィシャルに対して無礼であったり、または、選手はゲームに参加すべきでない状態やコンディションが分裂状態で不満足であり、レフェリーにより試合に出るべきでないと言われたとき。

問題の選手は別の選手に即座に交代することができる。

判定の方法

選手がルールを破ったとき、プレーを止めるためレフェリーは笛を吹く。そして、ただちにレフェリーはプレーの再開に向けて笛を吹く。

レフェリーの決定はいかなるときも公正で決定は最終的なものである。

1999 8月 国際バンディー連盟により制定されたものである。